



松木島八幡社

せんぐう かぜ
遷宮の風だより 第8報

発行元

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会

令和5年10月1日

今月14日(土)と15日(日)に秋祭りが行われます。恒例の子ども会による“神楽の舞”や“浦安の舞”、また木遣り唄、神楽太鼓、ちりから囃子の各保存会の皆さんが祭りに花を添えます。土曜日の夜にはお楽しみ抽選会も行われますので、皆さん是非お越しく下さい。

しんでんけしょうなおい
神殿化粧直し

神殿の板塀や手すりなどは、20年にわたり風雨にさらされてきましたので、板の変色や埃が見られることから、御遷座に合わせて化粧直し(洗い工事)を行いました。

化粧直しにより垢抜けたきれいな壁面がよみがえりました。暖かな“木目”本来の風合いを感じることができます。秋祭りの際には御遷座に向けて進められた各種の工事の状況をご確認していただきたいと思ひます。



ほうのうかくら
奉納神楽



奉納神楽という言葉聞いたことがありますか。神楽の起源は、天照大神あまてらすおおみかみが天の岩戸へ籠もられたとき、大神様をお慰めするために天鈿女命あまのうずめのみことが岩戸の前で舞いを舞ったことにあると云われています。松木島神社で神楽が奉納され始めたのは明治の終わりころと記録されています。

現在では子ども会の女子が2人1組となり、“雷祭り”と“秋祭り”の時に神楽殿で神楽を舞って神様に奉納しています。神楽の舞は、6年生が4年生、5年生に順次踊り方を伝承していく伝統的な行事となっています。また、笛や太鼓は神楽太鼓保存会の皆さんが奏でています。



はらへど
一口メモ：祓所



皆さんは、鳥居をくぐる前の右側に石造りの儀式を行うような場所があることをご存じでしょうか。この場所は“祓所”と呼ばれ、神殿での祭事を行う前に、この場所で神職が祓詞を唱え、神事に参列する者の頭上に大麻を振って、穢れを事前に祓い清める場所です。

今回のすかし

毎年、秋の祭礼に御神前に吊される提灯です。鳥居から神殿への参道中央に設けられ、この提灯の下をくぐって拝殿に向かいます。



ごせんざにたい
御遷座日程

： 令和6年3月23日(土) 木遣り行列、餅投げ行列

3月24日(日) 遷座行列、稚児行列